

○目標となる資質・能力

自治集団づくりに資する力、仲間づくり・絆づくりに資する力、コミュニケーション能力

○指導のねらい

1枚の絵を写し取るという課題解決をとおして、自分たちで話し合ったり、役割分担したりするなど、お互いに協力して実践しようとする態度を養う

○準備するもの

課題となる絵、画用紙・色鉛筆×グループ数、ワークシート×児童数

○教育課程、実施時期

特別活動、班替え等グループに変化があったとき

○留意点など

グループワークを実施する前に目的を十分に知らせ、教師はファシリテーター役として活動の様子を観察した上で、適切にフィードバックを行うこと

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知り、見通しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して、1枚の元絵を写し取ることをとおして、互いの良いところを探すことを知らせる ・絵を上手に描くことが目的でなく、仲間で協力して課題解決をすることが大切であると知らせておく
グループで協力して、絵を完成させよう		
展開 35分	2 ルールを知り、練習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な図柄を用い、ルールの定着と作戦会議のための練習をさせる
	3 グループで作戦を考え、絵を描く役割や順番を話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで工夫できることを話し合わせ、作戦会議を持たせる ・個々の適性に配慮して適切に役割分担を行わせる
	4 グループ活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はファシリテーター役として時間管理を行いながら、絵の完成度でなく子どもが十分に活動できているかという視点で観察を行う
	5 活動を終えて気付いたことをワークシートに記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・終了の合図をし、元絵を見せる ・ワークシートに友だちの良かったこと（言葉・行動）を書かせる
	6 ワークシートに記入したことをもとに、グループ内で交流する	<ul style="list-style-type: none"> ・各個人の良かったところを交流し、協力や分担の仕方などに改善点があれば根拠とともに話し合わせる
	7 グループで話し合ったことを全体に発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター役の教師は観察をもとに活動の様子を交えて良さを話す
まとめ 5分	8 学習を通して気付いたこと、考えたことを振り返り、感想をワークシートに記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに友だちと協力する良さや1つの目標に向けて力を合わせる良さを実感させる ・互いの良さを認め合いながら、自分の役割を果たすことで良い学級になっていくような希望を持たせる

参考

○「カラーコピー大作戦」について

1枚の元絵を子どもたちから見えない位置（教卓側・廊下等）に置き、ルールに従って元絵の図柄の位置や色を再現させる活動である。基本的なルールは次のとおりだが、詳細を学級の様子等に合わせて事前に決めておくなど、適切にアレンジすると良い。

- ① グループで役割を決める（元絵を見に行き行って伝える人、絵を描く人など）
- ② 元絵をグループから見に行けるのは1度に1人であり、順番を予め決めておく
- ③ 元絵を見た人は、絵を描く人に言葉で説明する

○「役割」について

役割については、「絵を描く人」「見に行き行って伝える人」と大きくは分けられるが、グループの工夫によっては、さらに紙面を分割して担当を決めたり、図柄の位置を見る人、色を見る人などで分担したりすることも考えられる。他にも、タイムキーパーや色鉛筆を渡す役割、次に見に行く人に何を見に行くべきかを指示する役割など、様々な役割が考えられる。役割をどれくらい子どもたちから引き出せるかが大切であるが、子ども同士の作戦会議で出にくい場合には例として伝えても良い。

○「絵」について

元絵は、活動時間と発達段階に応じて工夫することが望ましい。複雑かつパーツの多い絵は時間内に完成するのが難しく、達成感を得ることが難しくなる。ただし、班替えをする度に本授業を行うことで、徐々に難易度を変化させることは可能である。

○「グループ活動」について

簡単なワークであるが、正しく伝え、正確に絵を描き写したいという気持ちから、子どもたちが活発に活動する姿が期待できる。その際、教師はファシリテーター役として、時間管理と観察を行う。観察は、成果物の完成度ではなく、子どもたちの発言や行動に視点を置くようにする。例えば、グループ活動の中で見られた子どもの発言（「次の人は右上の部分の色を見てきて」「あと〇分だから、ちょっと急ごう」等）を拾い上げ、活動の最中に声かけをすることで意識を持たせても良い。教師はファシリテーター役として、絵を描くことが目的になりがちな子どもたちへ新たな視点を与えることも重要となる。このグループ活動では、子ども同士がコミュニケーションを取ることで、グループ単位での雰囲気づくりを行うとともに課題を解決するために仲間と協力して取り組むことの必要性に気づかせたい。

○「ワークシート」について

ワークシートを使い、活動の中で気付いた友だちの良さについて考えさせたい。1つの課題が全員の協力により完成したことをとおして、一人一人の良かった点に着目させる。記述に際しては、「よかったところ・がんばっていたところ」の記述の仕方に留意する。単に「絵を書くのをがんばっていたのでよかった」ではなく、具体的な記述になるように指示をしておく。例えば、「次に見に行くところを教えてくれたのがよかった」、「残りの時間をグループのみんなに伝えていたところがよかった」等、先述の「役割」とあわせて記述できるとなお良い。

○「グループ内で交流」について

ワークシートに記述した内容をもとに、話し合わせる。その際には、一人一人の良かった点を十分に出し合わせ、他者からの評価で「仲間から必要とされていること」や「自分も役に立っている」ことを実感させながら、自己効力感を育ませたい。グループ全体としては「工夫した点」「こうすればもっと良かった点」というように、グループ全体の良かった点と改善点について話し合い、主体的にグループに関わろうとする意識を持たせたい。その際、改善点が個人の責任にならないよう、十分に配慮する必要がある。

○「全体に発表する」について

元絵を全体に見せながら、グループで協議したことを発表させる。グループとして協力できたところ、工夫したところ、こうすればもっと良くなったと思うところなど、発表する内容について予め指示しておき、本授業のねらいに沿った発表になるように工夫する。また、その際、教師からもそれぞれのグループでどのような工夫がされていたかを全体に知らせるようにし、集団づくりを進めていく上での有効な態度について気付かせたい。また、今回の課題は1人ではできない課題であることを踏まえた上で、いろいろな人がいろいろな役割を担う中で活動できたこと、自分も集団の一員として力を尽くしたからこそ課題ができたこと、仲間がそれぞれに役割を担って支え合って活動できたことなど、学級の実態に合わせて集団の役割の在り方について伝えられると良い。なお、グループで作成した絵については、その後、見比べたり掲示したりすることも一つの方法ではあるが、絵を描くこと自体が目的ではないことも踏まえて、より適切な方法を検討してもらいたい。

資料

- 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(文部科学省)
- 「学校グループワーク・トレーニング」(日本学校グループワーク・トレーニング研究会)

カラーコピー大作戦^{だいさくせん}

年 組 番 名前

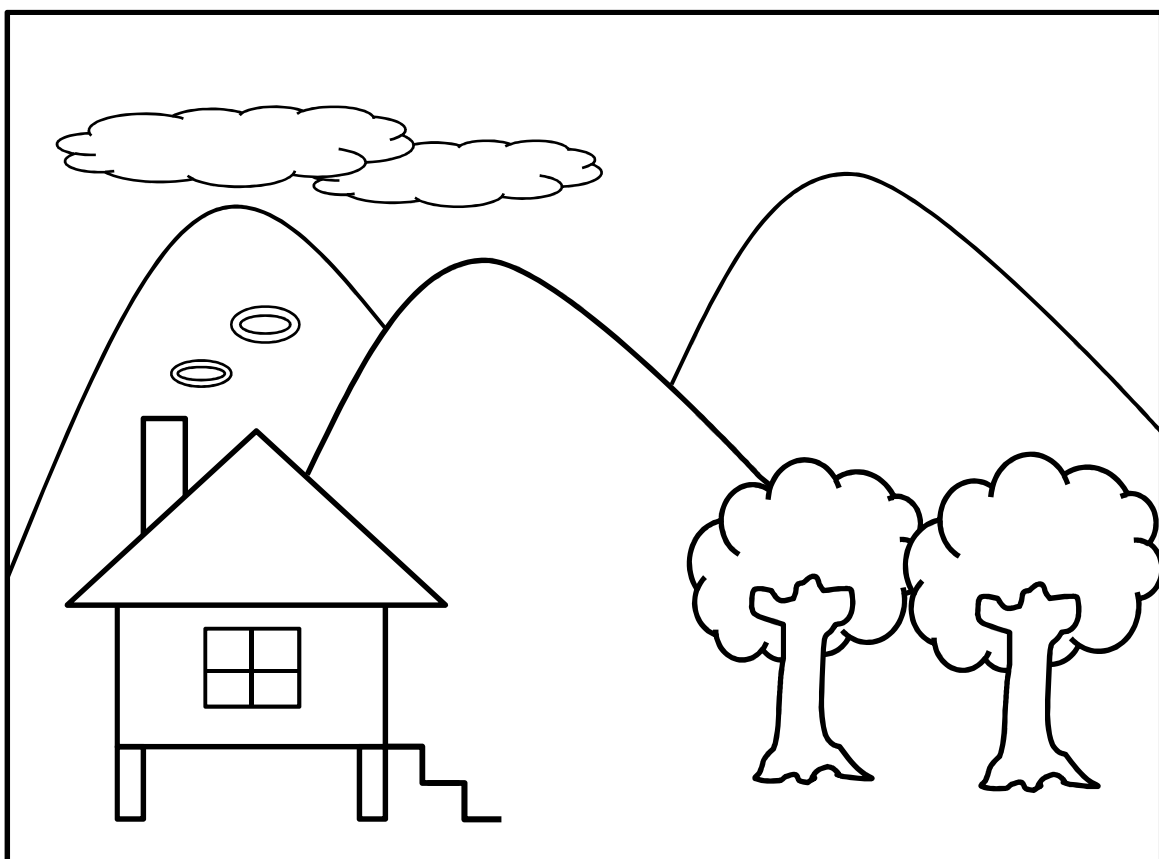
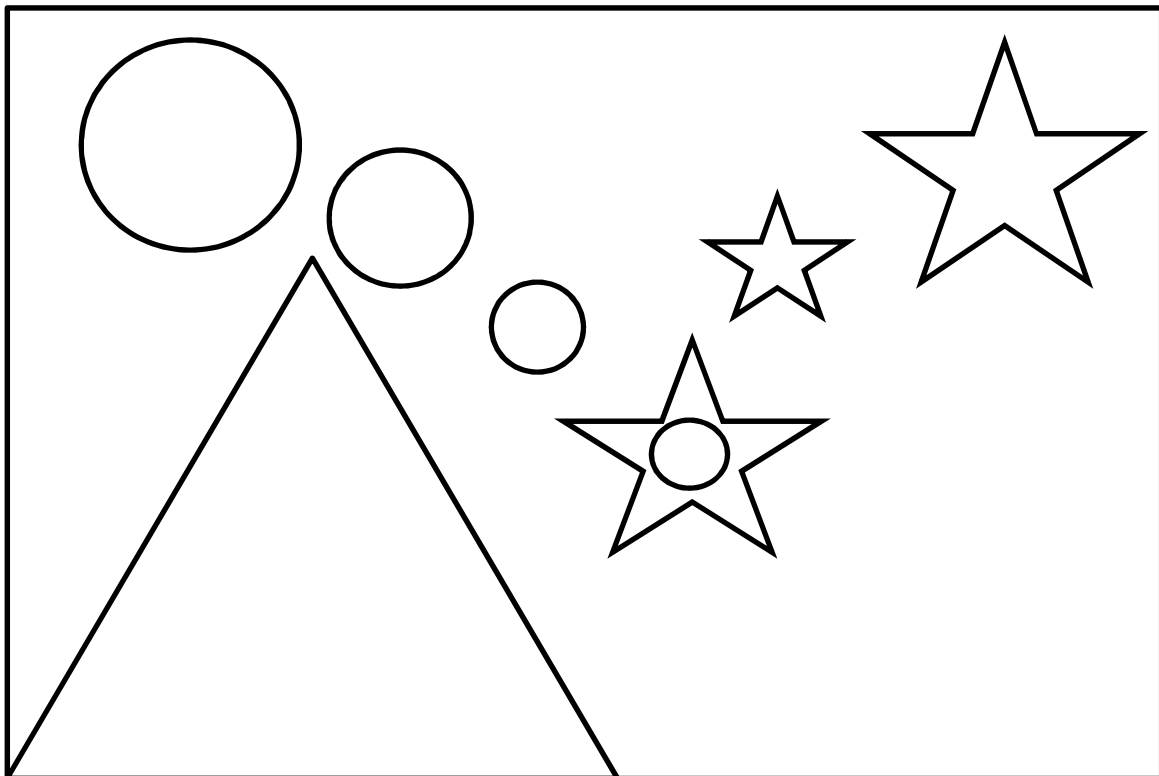
- 1 ^{かつどう}活動の中で自分のグループの^{ようす}様子をふり返ってみましょう。グループの友だちの名前を書き、どのようなところがよかったのかを書きましょう。
(「自分」の^{こうもく}項目は、自分でふり返ってよかったところを書きましょう。)

グループのメンバー	よかったところ・がんばっていたところ
自分	

- 2 今日の^{かつどう}活動で気づいたことや^{ふだん}普段の生活に生かせることを書きましょう。

--

<元絵（練習用・本番用）のサンプル>



※本サンプルを利用する場合は、拡大して、色を塗ってから使用してください
※学級の実態や発達段階等によってアレンジしたり、新規に作成したりしてください